

金沢大学整形外科同門会で、当時同門会代表幹事であった山田 浩先生(元石川県立中央病院・病院長の“ドクターズルール—医師の心得集”という講演を拝聴して深く感動した。整形外科医になって19年目のことである。先生曰く、「自分は45年間医療に携わってきたが、この間に医学の進歩があつて当然だし、社会に変化があつても当然で、その時代時代に対応して生きてきたが、いかなる時代にあつても医師として変えてはならないもの、忘れてはならないものがあつて当然である」と、身につまされるものが多く、ここにいくつかを紹介したいと思う。これらの心得は、米国の内科医であるクリフ・トン・K. ミーダーによるもの、金沢大学整形外科初代教授であった高瀬武平先生によるもの、そして山田先生自身によるものがあつた。

- ・ 疾病の中には治療のできないものがあるが、ケアをすることはすべての患者にできる。(ミーダー)
- ・ 臨床的証拠がないからといって病気が存在しないという証拠にならない。(ミーダー)
- ・ 患者の訴えは正しいものである。医学的にあり得ないと考えずに訴えに耳を傾けること。患者は全身で24時間病氣と戦っている。(ミーダー)
- ・ 能力がなければせめて親切にしまえ。(高瀬語録)
- ・ 医師は病気を治せない。病人が治るのを邪魔しないのがよい医師だ。(高瀬語録)
- ・ 前に座っているのが肉親だったらどうするか。(高瀬語録)
- ・ 患者から希望を取り去ってはならない。(高瀬語録)
- ・ 技術が未熟ならせめてキチンとした格好で診察に出たまえ。(高瀬語録)
- ・ 言葉は医師の有する最も重要な手段である。その重要性を認識して懸命な使い方ができるようになさい。(山田)
- ・ 親切にすることが最大の医療の補助になる。(山田)
- ・ あなたが病院で医師として仕事ができるのは多くの縁の下の力持ちの人達がいるからだ。(山田)
- ・ 夜間のナースからのコールは、医師に助けを求めていることを意味する。早く助けてあげること。(山田)
- ・ 医師は科学的であれば社会の信頼を得られると思っているが、社会の信頼は医師の人間性に寄せられている。(山田)

いかがでしょうか？ これらを読んでハッとすることがあるのでないでしょうか。われわれ医師は病気を治すのではない、病者を治すのだとよくいわれます。学問を追究しつつ、人間性を磨いてこそ最新・最良の医療を病者に提供できるのだと思います。まだまだ沢山ありましたが、もっと早く知っておけばよかった！の連続でした。若い先生がたが良医になることを期待します。

*1) 横浜栄共済病院・病院長〔〒247-8581 神奈川県横浜市栄区桂町132〕Director, Yokohama Sakae Kyosai Hospital

*2) 金沢大学名誉教授 Emeritus Professor, Kanazawa University

Author Hiroyuki TSUCHIYA